タバココナジラミの発生について

藤井俊昭・柴田昌男・門村逸喜

平成３年度の大温室の病害虫防除作業は、表のとおり計画し、業者委託により実施した。しかし，例年になくコナジラミの発生が多く，臨時で職員が薬剤散布を行ったが，完全に駆除することは出来なかった。

このコナジラミは従来からのオンシツコナジラミだけでなく，タバココナジラミが混在していたことが判明した。我国において，タバココナジラミは，大正７年にすでに確認されていたが，これまではさほど問題にならなかった。しかし平成元年に，アメリカから薬剤抵抗性の高い系統が侵入し，作物被害が年々広がっており，大きな問題となっている。

当園の大温室において，タバココナジラミは，ポインセチア・ランタナ・ヒビスクス等を主な寄主としている。(オンシツコナジラミの場合は，ウェデリア・ランタナ・ヒビスクス・ホクシャ・ヤトロハ等を主な寄主としている。) コナジラミ類は，存在事態が入園者に不快感を与えるものであり，今後ウイルス病の媒介等により被害を生じる恐れがある。

防除は薬剤に頼らざるをえないが，現在本種に対して，特効性のある薬剤はなく，有効薬剤を模索している段階である。大温室で比較的効果のあった薬剤は，オンシツコナジラミとの混在のため特定は困難であるが，ロディー乳剤・スプラサイド乳剤があげられる。

今後も引き続き有効な薬剤を調査していく予定である。

〈参考文献〉

林英明（広島県農業技術センター）1991．タバココナジラミの生態とその防除.

表．平成３年度大温室薬剤散布行程表（委託分）

○印は実施時期（上・中・下旬）を示す

薬　品	実　施											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
スプラサイド乳剤 トップジンM水和剤	○			○				○		○		
スミチオン乳剤 ベンレート水和剤		○			○							
オルトラン水和剤 テデオン乳剤			○			○			○			
アクテリック乳剤		○	○			○	○				○	○
マシン油乳剤（夏用）				○	○		○					